

「目指す」ことから「志す」ことへ

校長 鈴木 隆志

ゆりの木通りの街路樹・ユリノキの高い梢に、チューリップのような花がたくさん咲いています。新年度が始まり二ヶ月が経ちます。それぞれ入学、進級をした光っ子たちは、新しい環境にも慣れてきたことでしょうか。手をつないで登校する6年生に促されるかのように、1年生の元気な「おはようございます」の音が響きます。

◆あいさつ「いっぱい」の光八小

光っ子たちのよさの一つに「すすんであいさつをする子が多い」ことがあげられます。「あいさついっぱい」の学校」を掲げ、何年も継続して重点的に取り組んでいる成果の表れとも言えるでしょう。

では、『いっぱい』とはどんな様子なのでしょう。一人の子が、一日に何度もあいさつをすれば『いっぱい』につながります。「おはよう」だけでなく「こんにちは」も「さようなら」も「ありがとう」も言えれば、『いっぱい』につながります。たくさんの子が、みんなであいさつをすることも『いっぱい』につながります。小さな声でなく、大きな声であいさつすることも『いっぱい』です。あいさつをされたら、あいさつを返すことでも『いっぱい』になります。言われてするあいさつではなく、自分からすすんでするあいさつも、『いっぱい』には必要です。

光八小は、「あいさつをする学校」ではなく、「あいさつ**いっぱい**の学校」を目指しているのです。6月13日(月)からの一週間、小中連携の取り組みとして、光が丘第四中学校、光が丘秋の陽小学校とともに、「あいさつ運動」を実施します。学校内だけでなく、地域にもあいさつが『いっぱい』になることを期待しています。

◆言葉を交わすお付き合い(保護者の名札)

保護者の皆様には、来校の際に名札を付けていただいています。学校職員もできる限り名札を着用するように努めています。ある日のことです。用事で来校していた祖母の方が、私の名札をちらりと見て、「あら、校長先生ですのね…。」と声をかけてくださいました。私たちも、来校する保護者の方の名札をちらりと見て(失礼)、言葉を交わします。顔の見えるお付き合いはとても大事ですが、顔が見えるだけのお付き合いではなく、言葉を交わすお付き合いをしていきたいと願っています。

◆「目指す」ことと「志す」こと(道徳の話)

〈目が一定の方向を指す行為を「目指す」といい、心が一定の方向を指す行為を「志す」という。〉このことを教えていただいたのは、練馬区立光和小学校長・朝倉 諭美子先生です。

知・徳・体のバランスのとれた人間を育成することが学校教育の目指すところですが、なかんずく徳性(心)は、人間の本質であり、知や体を根底から支える重要な資質です。これがしっかりとないと、「人格」は不調和の一途をたどり、未完成の大人だらけになりかねません。このことも、前述の朝倉先生から学びました。道徳教育でも、「目指す」ことから「志す」ことへと、学びの質の向上を図ることが大事なことと言えます。

6月25日(土)は、学校公開日として3校時に全校一斉に道徳の授業を公開します。4校時には保護者対象に道徳教育についての講演会を行います。講師は、朝倉 諭美子先生(東京都小学校道徳教育研究会会長)です。たくさんの方の御参加をお待ちしています。

さて、上記の三題は、自分一人だけでは身に付けることができないものです。他者とのかかわりを通して、初めて身に付いていくものです。人とのかかわりを大事にしていましましょう。今月は、『ふれあい月間』です。